

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】令和 1 年 10 月 10 日 (2019.10.10)

【公表番号】特表 2017-523904 (P2017-523904A)

【公表日】平成 29 年 8 月 24 日 (2017.8.24)

【年通号数】公開・登録公報 2017-032

【出願番号】特願 2016-569685 (P2016-569685)

【国際特許分類】

B 0 9 B 3/00 (2006.01)

B 0 9 B 5/00 (2006.01)

C 2 2 B 1/00 (2006.01)

C 2 2 B 3/06 (2006.01)

C 2 2 B 3/10 (2006.01)

C 2 2 B 21/00 (2006.01)

【 F I 】

B 0 9 B 3/00 3 0 4 Z

B 0 9 B 5/00 Z A B Z

B 0 9 B 3/00 Z

C 2 2 B 1/00 6 0 1

C 2 2 B 3/06

C 2 2 B 3/10

C 2 2 B 21/00

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 1 年 8 月 30 日 (2019.8.30)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 0

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 2 0 】

繊維状物質も含有するバック材料の場合、最初にその繊維状物質を剥がし、そしてその際に形成された繊維状物質の懸濁物を、残っているプラスチック残滓及びアルミニウム残滓から除去又は分離することが有意義である。その後、酸を使ってアルミニウムの溶解を行う。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 2】

前記バック材料が繊維状物質も含み、その際、繊維状物質の懸濁液を形成するため、前記アルミニウムを溶解する前に該繊維状物質を剥がし、及びその際、該アルミニウムを酸に溶解する前に、該繊維状物質の懸濁液を前記プラスチック及び前記アルミニウムから分離することを特徴とする、請求項 1 に記載の方法。